

**Special Olympics**

**Young Athletes**

**PLAYBOOK**

**Be a fan of fun**

2013年3月

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 監修



## 目次

<b>1. ヤングアスリート概略</b>	
ようこそ	1. 1
スペシャルオリンピックスの使命	1. 2
ヤングアスリートの背景	1. 3
ヤングアスリートの目標と目的	1. 4
ヤングアスリートの発展のあゆみ	1. 5
ヤングアスリートのパイロットプログラムのまとめ	1. 6
ヤングアスリートの評価のまとめ	1. 7
<b>2. ヤングアスリート資料等</b>	
ヤングアスリートアクティビティガイド	2. 1
ヤングアスリートトレーニング DVD	2. 2
ヤングアスリートの道具	2. 3
ヤングアスリートの紹介用パワーポイント資料	2. 4
<b>3. ヤングアスリートプログラムの実践</b>	
ヤングアスリート概略	3. 1
ヤングアスリートを始めるにあたって	3. 2
ヤングアスリートプログラムコーディネーターの役割	3. 2. 1
教育者への手紙例	3. 2. 2
地域の障害者団体への手紙例	3. 2. 3
ボランティアへの手紙例	3. 2. 4
ヤングアスリートのデモンストレーションの計画と実践	3. 3
SO テキサスでのデモンストレーション例	3. 3. 1
寄付者と支援者を募るためのヤングアスリート概略	3. 4
ヤングアスリートのファンドレイジング活動	3. 4. 1
スポンサーや支援者への手紙例	3. 4. 2
ファンドレイジングの書式例	3. 4. 3
ヤングアスリートの広報	3. 5
ヤングアスリートプレスリリース例	3. 5. 1
ストーリー	3. 5. 2
ファミリーの参加を促すアイデア	3. 6
ヤングアスリートとファミリーサポートネットワーク	3. 6. 1
ファミリーへの手紙例	3. 6. 2
仲間を集めるためのアイデア	3. 7
仲間の両親への手紙例	3. 7. 1

何年もの間、スペシャルオリンピックス（SO）には、8歳になる前から子供達をスペシャルオリンピックスに参加させたいという希望が、多くのファミリーやコーチ、教師から寄せられていました。マテル子ども財団やリンチファミリー財団、そしてギャングファミリー財団の惜しみないサポートと、世界中でスペシャルオリンピックスに関わる人たちの先駆的な努力のおかげで、ついに知的障害のある子供達が、練習し能力を高めることのできる場所を見つけました。私たちは、大いなる情熱と期待をもって、2歳から7歳の子供達をスペシャルオリンピックス活動に迎え入れるためのヤングアスリート™プログラムを作り上げました。

ヤングアスリートプログラムは、知的障害のある子供達のファミリーに、互いがネットワークを築くための手段を提供することで、スペシャルオリンピックスのプログラムで役立つ手法やサポートを作り出す機会を生み出していきます。スペシャルオリンピックスにとっては、知的障害のある子供達が8歳になる前に活動へ参加するきっかけとなり、将来はアスリートとして参加するようになるという恩恵を受けることができます。もちろん、彼らのような将来のスペシャルオリンピックスアスリートも、スキルを高め、自信を持ち、8歳になる頃にはスペシャルオリンピックス活動に参加する準備が整っているという点で、ヤングアスリートからの恩恵を得ることができるのです。

スペシャルオリンピックスは、多様な目的をもって、このヤングアスリートプレーブックを作成しました。何よりもまず、この資料が、各国でヤングアスリートを理解・準備・実行するのに役立つことを望んでいます。2番目に、ヤングアスリートプレーブックは、知的障害のある子供達の多様な能力を多くの人に知ってもらおうと皆さんが行っている努力をサポートできることを望んでいます。

ヤングアスリートを実施することを決めていただき、ありがとうございます。スペシャルオリンピックスやファミリー、友人やコーチ達の協力によって、知的障害のある子供達に、世界中のSOアスリートが楽しんでいるものと同様の、豊かで有益な経験を提供できることを約束します。

スペシャルオリンピックスの使命は、知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じたさまざまなスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気をふるい、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供することです。

知的障害のある子供達やファミリーに参加を促すことは、スペシャルオリンピックスの世界では新しいアイデアではありません。スペシャルオリンピックスの使命は、「知的障害のある人たちに、年間を通じて様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供すること」です。スペシャルオリンピックスとジョセフ・P・ケネディ財団は、知的障害のある子供達が競技会やトレーニングに参加する年齢に達する前から、彼らに手を差し伸べることの必要性を理解していました。しかしながら、スペシャルオリンピックスがプログラムを実施し始めた1960年代以来、トレーニングや競技会の場は、いつも8歳以上の知的障害者のみに焦点があてられていました。

1970年代初頭に、スペシャルオリンピックスは、8歳未満の子供達を対象としたプログラムを開始するため、40人近くの専門家や両親、ボランティアや教師を集めました。数え切れないほど長い時間をかけた調査やインタビュー、現場での実験の後、チームは「大きくなるために遊ぼう (Let's-Play-to-Grow)」プログラムを立ち上げました。「大きくなるために遊ぼう」プログラムは、知的障害のある子供達のために、ファミリーに向けて、構築された遊び習慣の発達を促すことに焦点をあてていました。そのプログラムは、ダンスからソフトボールまでの12の詳細な項目からなっていました。そして柔軟であることがプログラムの重要な原理とされていました。つまり、両親や保護者はカリキュラムの時間割がなく、自然なペースで活動を行うように促されました。また、プログラムには、達成するための動機付けとなるようなことが含まれていました。子供達は、30時間の遊びを終えるとスペシャルオリンピックスへハガキを送り、かわりに修了証とワッペンを受け取ります。「大きくなるために遊ぼう」プログラムは、1970年代から1980年代初頭にかけて成功し、アメリカ全土で、多い時でおよそ2000人の子供とファミリーが参加しました。しかしながら、連邦政府の基金の減少とその他の困難により、1980年代中頃にこの取組みは休止に追い込まれてしまいました。

各国スペシャルオリンピックスからの8歳未満の子供達をトレーニングに参加させたいという要望に答えるため、スペシャルオリンピックスは1997年に「遊び活動 (Play Activity)」プログラムを導入することで、活動の取組みについて再考を始めました。これが、6歳から7歳の知的障害のある子供向けに構築されたプログラムの始まりとなりました。「大きくなるために遊ぼう」プログラムとは対照的に、「遊び活動」プログラムは、スペシャルオリンピックスにおいて幼すぎて競技に参加できない知的障害のある子供達を対象に、計画的なトレーニングを行うことに焦点をあてていました。プログラムの目標は、子供達にスキルや勇気、スペシャルオリンピックスの喜びを共有することを伝えるものでした。「遊び活動」プログラムには、前任者から引き継いだ“柔軟性”から脱却し、明確な目標や活動スケジュール、参加する子供達の技能評価などの決められたカリキュラムがありました。また、個人スキル用の活動からグループゲームまで継続性を考慮して考えられたプログラムで、子供達が将来、スペシャルオリンピックス活動

で競技に取り組む準備にもなります。「遊び活動」プログラムは、わずかな成功と最小限の参加という結果となりました。スペシャルオリンピックス活動にむけて、SO アスリートやファミリーを魅了するために、より活発にアピールするための何かが必要であることが明らかとなりました。

「大きくなるために遊ぼう」プログラムと「遊び活動」プログラムの両方によって、将来のアスリートやそのファミリーに出会うという目標により近づくことになりました。これら両方の良い点を組み合わせることで、SO ニュージャージーは、「スペシャルオリンピックス早期アウトリーチ」に新たに取組む試みを始めました。「大きくなるために遊ぼう」プログラム初期から、その発展期、そして「遊び活動」プログラムの開始まで、SO ニュージャージーのリーダーシップは、知的障害のある若者やその家族への働きかけとして非常に評価できるものでした。ギャングファミリー財団とトレーニングされて資格を持った理学療法士チームの惜しみない支援により、SO ニュージャージーはヤングアスリートプログラムを作り、立ち上げました。ヤングアスリートはニュージャージーにおいて並はずれた成功をおさめ、将来のアスリートとそのファミリーにとっての世界的なアウトリーチモデルとして、結果的に SO 国際本部からも注目を集めるようになりました。

ヤングアスリートは、身体と認知、そして社会性の発達を促進するのに適した活動を通して、知的障害のある子供達と向き合います。そして、知的障害のある子供達のファミリーをスペシャルオリンピックスのサポートネットワークに迎え入れ、仲間の参加や発表会、その他イベントを通して、知的障害のある子供達の能力についてより多くの人に知ってもらえるようになります。プログラムは個々のファミリーから地域の教室まで、様々な環境で利用されます。ヤングアスリートは、ファミリーが幼い子供達の発達をサポートする地域のネットワークに参加する機会となることを狙いとしています。

SO ニュージャージーの経験で実証された類まれなる成功事例にも関わらず、知的障害のある子供達が参加できる大規模なスポーツ活動やその機会は、極端に限られている状況に変わりはありませんでした。長い間、SO 国際本部は、知的障害のある子供達のファミリーからのスペシャルオリンピックスで競技をするには十分な年齢に達していないという主旨の質問を受けていました。「私の子供は、いつスペシャルオリンピックスに参加できるようになりますか？8歳になるまでに彼女には何ができますか？子供と一緒に、どんな活動をすればよいですか？」このような質問が、世界中の各国スペシャルオリンピックスに届きました。「大きくなるために遊ぼう」プログラムと「遊び活動」プログラムは、共にスペシャルオリンピックスとの関わりや繋がりが不足していたのです。ファミリーがスペシャルオリンピックスへの導入として温かく迎え入れられる一方で、個別に、あるいは家族が簡単に実践したり、学校での小さなグループで教師が実践

したりできる子供向けの活動を考えることが次の挑戦となりました。

2004年にSO国際本部理事会とプログラム委員会は、将来のアスリートやファミリー、SOプログラムからの挑戦に応えました。委員会は、新しいアスリートやファミリーにとっての早期アウトリーチ体系として、8歳未満の子供達の発達に適した活動を含んだ題目について話し合いました。プログラム委員会はスポーツトレーニング、競技、健康促進、理学療法、そして社会性や認知の発達における準備として、早期スキル発達を促す活動の特長に焦点をおきました。徹底的な見直しの結果、SO国際本部はSOニュージャージーのヤングアスリートをモデルとして前進することを決めました。理事会は、SOスタッフにヤングアスリートプログラムのための資金を確保し、プログラムを修正し順応させ、試験的に実施することを課しました。

ヤングアスリートのための資金探しは、将来のアスリートやファミリーをスペシャルオリンピックスに勧誘して迎え入れたり、スペシャルオリンピックスを紹介したりする各国プログラムのツールとして、世界中でヤングアスリートの発展を喜んでサポートしているマテル子ども財団へと導きました。支援には、発展や試験的实施、世界的展開を通してヤングアスリートを拡大するための3年にわたる補助金が含まれていました。ヤングアスリートの準備は2005年初旬に完成し、3月15日にスペシャルオリンピックス会長兼最高責任者のティモシー・シュライバー氏によって、NBCのテレビプログラム“The Today Show”の中のインタビューで世界に発信されました。ヤングアスリートの試験的实施は2005年下旬に始まり、2006年を通して行われました。



1968年の設立以来、スペシャルオリンピックスは8歳以上の知的障害のある子供達にスポーツトレーニングや競技会の場を提供する卓越した世界組織として活動してきました。何年もの間、幼すぎて競技に参加できない子供達のファミリーは、スペシャルオリンピックス活動に参加するための手段を求めてきました。マテル子ども財団やギャングファミリー財団、リンチファミリー財団の惜しみない支援により、スペシャルオリンピックスは今、2歳から7歳の知的障害のある子供達の発達に適した遊びのプログラムであるヤングアスリートという取り組みを通して、未来のアスリートやファミリーを迎え入れることができます。

ヤングアスリートは、様々な学習の場において役立つ用途の広いプログラムです。そのプログラムは、楽しい雰囲気の中で、ファミリーが自宅で子供達と遊ぶ際にも用いることができるよう作られています。また、知的障害の有無に関わらず、幼稚園や小学校、保育園など、小さな集団で活動する場にも適しています。ヤングアスリートプログラムの柔軟性によって、ファミリーや子供達はSOファミリーの一員として確実に参加することができるのです。

#### プログラムの目標

- 身体と認知、社会性の発達を促すために考えられた遊びの活動を通して、知的障害のある子供達を夢中にさせる
- 知的障害のある子供達のファミリーをスペシャルオリンピックスのサポートネットワークに迎え入れる
- 仲間と一緒に活動に参加し、発表会やその他イベントを通して、知的障害のある子供達の能力についての認知度を上げる

#### プログラムの目的

##### 1 楽しもう；

- ヤングアスリートは楽しむことが第一です。子供達や仲間、ファミリーや教師、その他参加者がヤングアスリートの活動やイベントに楽しんで取り組むことを常に忘れないでください。

##### 2 知的障害のある子供達やファミリーをスペシャルオリンピックスに紹介しよう；

- ヤングアスリートは、知的障害のある子供達向けに構築されたスペシャルオリンピックス活動を経験したり、また参加したりするのに一番ふさわしい場所です。

##### 3 知的障害のある子供達の発達面における成長を支援しよう；

- ヤングアスリートの活動は、知的障害のある子供達にとって発達面における重要な成育段階を支援するように作られています。

##### 4 知的障害のある子供達の能力について認知度を上げよう；

- ヤングアスリートは仲間と一緒に参加し、発表会、その他イベントを通して、知

的障害のある人たちについて、地域全体において認知度を上げる機会を提供します。

5 知的障害のある子供達が 8 歳になるまでに、スペシャルオリンピックスで練習し競技に参加する準備をしよう；

- ヤングアスリート活動は、未来のスペシャルオリンピックスでのトレーニングや競技のために必要な基礎能力の導入と発達のために作られています。

- 知的障害のある子供達へのアウトリーチと、インクルージョンの機会は、スペシャルオリンピックスにとって不可欠であり、当初から活動の使命の主題として提示されていました。何年もの間、スペシャルオリンピックスは「大きくなるために遊ぼう」プログラムや「遊び活動」プログラムを含む取組みを行い、課題解決に向けて試みてきました。
- 2004年にSO国際本部理事会とプログラム委員会は、社会性と認知の発達と同様にスポーツトレーニングと競技会、健康促進と理学療法の準備段階として、早期技能発達活動の特長に着目しました。検討の結果、プログラム委員会は、革新的なスポーツ活動プログラムであるヤングアスリートの実地検証の権限を与えました。
- マテル子ども財団やギャングファミリー財団、リンチファミリー財団の惜しみない資金提供によって、スペシャルオリンピックスは2006年に世界21カ国でパイロットテストを実施することができました。プログラムの構造とパイロットテストの成果は最新報告にまとめられています。リンチファミリー財団の惜しみない資金提供により、SOマサチューセッツは2006年から2007年にかけてSOヤングアスリート行動計画の策定とプログラムの実施が可能となりました。
- そのプロジェクトに取り組んだ4000人近い参加者と1800人以上のファミリーの協力により、ヤングアスリートは柔軟性があり、尚且つ計画的な構造となっていることが明確になりました。つまり、個々の家族、教室や地域活動まで、様々な環境において利用されているのです。ヤングアスリートによってファミリーは、子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験することができます。
- スペシャルオリンピックスはボストンマサチューセッツ大学に、重要な参加者であるヤングアスリート達、ファミリーや教師達のヤングアスリートプログラムにおける結果と効果の包括的研究を実施する権限を与えました。
- ボストンマサチューセッツ大学のSOヤングアスリートの研究は、ヤングアスリート活動における主要な成果について明らかにしました。特に、教師やファミリーは、社会性や運動神経、適応行動やコミュニケーションと認知において大幅な発達が見られたことを報告しました。アメリカの95%の両親が、ヤングアスリートプログラムを続けることに興味を示し、さらに75%は、年齢が達したら子供達をスペシャルオリンピックスのトレーニングと競技に参加させたいと感じているのです。

#### 課題は…

2004年、SO 理事会はヤングアスリートにおける以下の点について達成することを決定しました。

- スポーツトレーニングと競技に参加するヤングアスリートを新しく勧誘する
- 2005年に少なくとも12のパイロットテストを実施する
- パイロットテストを通じて1000人の子供を募集する
- 2006年に予定されているグローバルリソースの発展に使うために、パイロットプログラムで発見したことをまとめた調査報告書を作成する
- 各パイロットプログラムで、1日はヤングアスリート・ファミリーデー発表会を行う

スペシャルオリンピックスの指導者は、組織開発部にSO ニュージャージーの例を世界中で実施するという課題を課しました。その部署はまず、ヤングアスリートを世界中に広めるための支援者として、マテル子ども財団の位置づけをすることから始めました。次に、SO 国際本部はSO ニュージャージーと連携し、ヤングアスリートの試験的实施をするために必要な材料をそろえました。その材料とはヤングアスリート・パイロットアクティビティガイド、ヤングアスリート・パイロットトレーニングDVD、ヤングアスリート道具セットです。組織開発部は次に、ヤングアスリートを実施できるような国を探し、管理する方法を考えることに集中しました。

スペシャルオリンピックスはリージョン事務所のスタッフに依頼して、ヤングアスリートの試験的实施をしてくれそうなプログラムを決めることにしました。以前に、その方法でうまくいっていたからです。理事会は12カ国が試験的实施に参加することを必須としていましたが、各国の圧倒的な要求により21カ国で実施することになりました。各国のプログラムは5,000ドルの助成金、ヤングアスリート道具セットとアクティビティガイドを受け取りました。助成金は、試験的实施の目的を統一し、想像力にとんだ新しいアイデアであることを推奨していました。試験的实施をおこなった国は、規模、経験、地理といった条件が多様になるよう選ばれました。

項目	目標	結果
実施国（プログラム）数	12	21
ファミリーデーと発表会の回数	12	60
ヤングアスリート数	1,000	3,787
ファミリー数	1,000	1,841

SO 国際本部はボストンマサチューセッツ大学に、ヤングアスリートのパイロットテスト（SO が選抜し育ててきた会場でのプログラム）を観察するように依頼しました。調査の主要な目的は2つあり、1つ目はヤングアスリートプログラムの構成における多様性の確認、2つ目は教師や両親から見たヤングアスリートプログラム参加者への影響についてです。

これらの調査は次の領域において一貫性のあるデータを生み出しました。対象地域はイスラエル、アメリカ、ルーマニアです。

1. ヤングアスリートプログラムの構成
2. 活動の種類
3. 教師による報告
4. 両親の感想

### ヤングアスリートプログラムの構成

始まったばかりの頃のヤングアスリートプログラムは、一貫性と地域性を生かすことのバランスに配慮するようにしていました。つまり、文化的な背景に合わせた目標達成を目指すようにしていたのです。全体的に「子供にとっての親睦の場／遊びの時間」ということをプログラムの重要要素とし、それは「はじまり／終わりの活動」と「ウォームアップ／クールダウン活動」によって強化されます。同時に、「家族の時間」とその他両親の要素が、アメリカ以外の国で重要とされていました。アメリカとルーマニアでは、ほぼ3分の1にあたるプログラムで、おやつ時間を毎回とっていました。

プログラムの構成	アメリカ 活動内容	ルーマニア 活動内容	イスラエル 活動内容
子供達の親睦／ 遊びの時間	64%	70%	100%
子供向け はじまり（導入）	50%	40%	0%
子供向けウォームアップ	45%	100%	100%
子供向けクールダウン	36%	80%	100%
子供向け終わりの活動	36%	90%	100%
子供向けおやつ時間	25%	30%	0%
両親向けはじまりの活動	4%	60%	0%
ファミリーの時間	4%	60%	100%
両親向け終わりの活動	4%	40%	0%

ルーマニアでは、週に1度、30～60分のセッションを行っていました。70%の教師が8人から13人の子供達を1クラスで担当し、1人から12人の大人が子供のニーズに合わせて教師をサポートしました。このような標準のプログラムに加えて、2箇所のプログラムでは、子供に関する全く違うテーマについて両親との面談を行っていました。

一方で、イスラエルではほとんどの教師が参加者の両親で、ヤングアスリートプログラムを1週間に1度、30分～60分のセッションを7人から9人の子供達と行いました。子供の年齢や能力レベルによって、ほとんどのクラスは2人の大人で実施されました。

### 活動の種類

活動の種類については、調査結果によって、アメリカとルーマニア、イスラエルの間で大きく差があることが確認できました。アメリカで行われているヤングアスリートプログラムの50%以上が基礎運動に重点を置いていましたが、ルーマニアでは30%、イスラエルでは10%しかありませんでした。同時に、ルーマニアでは「トラップとキャッチ」と「ボール投げ」（どちらも60%）に着目していました。

その3箇所におけるヤングアスリートプログラムは、応用スキルを練習する時間を限定していました。アメリカにおける25%、イスラエルでは10%が応用スキルの内容に取り組んでいましたが、ルーマニアでは全く実施されていませんでした。

全ての各国プログラムを通して、ヤングアスリートプログラムにある活動の一部しか活用しない理由は、障害の種類に起因する難易度によるもので、特に応用スキルと打つこと、バランスとジャンプでの分野においてでした。アメリカとルーマニア、イスラエルのプログラムでは、活動を進める速さや時間を調節し、子供がより熱心に参加するように刺激を与えたり、ほめたりすることを体系的に活用していました。

スキル分野	アメリカでの 使用率	ルーマニアでの 使用率	イスラエルでの 使用率
基礎運動	53%	30%	10%
歩くことと走ること	62%	50%	40%
バランスとジャンプ	44%	20%	10%
トラップとキャッチ	53%	60%	30%
ボール投げ	53%	60%	20%
打つこと	31%	20%	20%
キック	34%	50%	20%
応用スキル	25%	0%	10%

## できるようになったこと（教師による報告）

教師に子供や両親への影響に関して質問をしました。特に、プログラム<sup>注1</sup>に参加して、どのぐらいのスキルが身についたかを聞きました。「ヤングアスリートプログラムに参加して、最も良かったと思うことは？」と教師に質問し、いくつかのカテゴリーごとに答えてもらいました。それは、社会性や感情面での発達、運動神経の発達、適応行動の発達、コミュニケーションの発達です。下の表にいくつかの主要なコメントをまとめました。

改善した分野 利用の割合	教師の感想 アメリカ	教師の感想 ルーマニア	教師の感想 イスラエル
運動神経の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランス、コーディネーション、ジャンプ、片足とび、ボール投げ</li> <li>・全体/微細運動スキルの発達</li> <li>・何人かはボール投げとキックに問題あり</li> <li>・ボール投げやキックをする時に待てるようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスとコーディネーションのスキル、歩くことと走ること、ジャンプ</li> <li>・バランスと歩くことは顕著に改善した</li> <li>・運動中の空間適応能力の向上</li> <li>・基礎運動能力の発達、精神運動に関する困難さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある子はボールを蹴ることができなかったが、できるようになった</li> </ul>
社会性や感情面での 発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順番を待てるようになり、参加を拒否していた子供が、先頭で参加している</li> <li>・ゲームを終わらせようとお互いに励ましあっているし、それぞれが終わるとほめあっている</li> <li>・仲間との協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の両親、他の子供、その子の親と交流できるようになった</li> <li>・他の子供との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力し合うスキルが向上した</li> </ul>
適応行動の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視線を合わせるが増えた</li> <li>・当初は参加拒否していた子供が参加したがるようになった</li> <li>・指示に従えるようになってきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注目する、集中する力の向上</li> <li>・自発的な行動の刺激</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスンの間、集中する努力をし、指示を聞こうとしていた</li> <li>・秩序ある方法でレッスンに到着することを学んだし、事前に準備を整えている</li> <li>・用具の準備や片付けを手伝った</li> </ul>

注 1 教師は各子供における具体的な成果について評価していない。プログラムにおいて子供達に成果が見られたかどうかを、5つの分野の発達について回答してもらった。（運動、社会性、コミュニケーション、適応能力と認知）

コミュニケーションの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具を自分で選べるようになった</li> <li>・活動を模倣し、もっと活動しようとするそぶりがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭で模倣するスキルの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仲間とずっと話をしている</li> <li>・コミュニケーションをよくとっている</li> </ul>
--------------	---	--	---

さらに、特定のスキル分野における発達について表 2 にまとめました。ヤングアスリートに参加することによる子供達のその他の成果についてです。特に、ヤングアスリートプログラムでの観察に基づき、アメリカの教師は 54% の割合で子供の能力に関する期待を高めていました。ルーマニアとイスラエルでは、それぞれ 40% と 50% に達していました。ヤングアスリートの参加者が「仲間と楽しんでいる」とアメリカの教師の 89%、ルーマニアの 100%、イスラエルの 60% が答えていました。

アメリカとイスラエルでは、プログラムはヤングアスリートのプログラム内という枠から、さらに広い意味での地域への影響があったとしています。アメリカで観察されたケースでは 25% 以上において、教師がヤングアスリートは学習やボランティア活動の機会を生み出していると関連付けました。イスラエルでは、ボランティア活動の機会が増えたというケースが 50% ありました。

スキルの発達分野	成果報告 アメリカ	成果報告 ルーマニア	成果報告 イスラエル
コミュニケーション	62%	90%	90%
運動	75%	90%	80%
社会性	65%	80%	80%
適応行動	69%	80%	30%
認知	71%	80%	60%

### 両親による成果報告

ヤングアスリートの効果における重要な指標として、プログラム参加者の両親がヤングアスリートは現実的なニーズに取組み、発達面での期待に合致していると確信しています。特に、アメリカでは両親の 75% が子供の目標を達成した、超えたと答えました。ルーマニアでは 90% の両親がヤングアスリートに参加することで子供と接する方法を新たに学んだと答え、70% が子供の発達に関わる期待が高まったと答えました。将来に関する大まかな計画を聞いたところ、95% の両親がアメリカではヤングアスリートプログラムを続けたいと示唆し、75% が参加できる年齢に達したら、SO のトレーニングや競技会に参加したいと答えました。

以下に、アメリカとルーマニア、イスラエルでヤングアスリートプログラムに参加した



両親から聞き取った意見の中で特有の見解が表現されているものをまとめました。

両親の声：ヤングアスリートに参加して最も大きかった影響

- (ヤングアスリートプログラム) で子供は「できるようになった」という気持ちと、自信を高めることができました。これによって、他の仲間ともっと関わりを持ちたいと思う気持ちが出てきました。
- 社会性と運動能力の機会。兄弟と遊べる。彼らは一緒にいて楽しそうです。
- 系統だって、よく考えられた遊びから得られるものがある。色や形を学ぶことができる。
- (ヤングアスリートプログラム) は地域社会が障害のある子供をより理解することにつながります。子供にとっても、地域にとっても良いことだと思います。
- 1つあげるとすれば、私たちが子供の後に続く(子供が主役になる)ようなもの。子供をじゅうたんの下に掃きいれてしまうのを防ぎます。子供を大切な家族の一員とし、彼らにも取り組めることを与えてくれるのです。
- 共通の居場所を見つけました。そこでは息子と私がスポーツで繋がることができます。
- ヤングアスリートプログラムによって家族全員が子供の発達に関わるできるようになりました。子供が1つずつできるようになることで、家族の不安も軽減されます。
- 我が子が小さなことをできるようになるのを誇りに思えるのが良いところです。
- 他の両親達と障害のある我が子のニーズについて話し合う機会を与えてくれます。つながりを持つこと、情報を共有できることが素晴らしいメリットです。他の人と障害のある子供を育てるということがどういうことなのかを話せる機会となります。
- 近所の子供達がうちに来て、ヤングアスリート道具セットで私と一緒に遊んでいます。
- 一番すばらしいと思うことは、チャンスがたくさんあることです。彼らのような子供ができることがあるのです。目標は彼らが何かをするために社会に出ることです。保護することではありません。
- 子供に対する期待が変わりました。
- ブロックの上に乗ることを学んだ後、家の近くにある階段を自分でのぼっていることに気がきました。

スペシャルオリンピックス・ヤングアスリートパイロットテストの報告書完全版は次のホームページをご参照下さい。

[www.specialolympics.org/youngathletes](http://www.specialolympics.org/youngathletes)

ヤングアスリートアクティビティガイドには、スペシャルオリンピックスヤングアスリートの公式活動がまとめられています。その活動は、特別支援教育や体育、障害者向け体育、理学療法と作業療法分野の専門家が集まって作りました。専門家のチームは、知的障害のある子供達に、発達に適した活動を作り上げるために、経験のある SO スタッフと綿密に打合せをしました。その活動は、知的障害のある子供達のみならず、2歳から7歳の全ての子供達に適しています。そして、知的障害の有無に関わらず、仲間との相互作用を可能とするのです。

ヤングアスリートアクティビティガイドの PDF ファイルは、このプレーブックとセットになっている CD に含まれていて、このプロジェクトについて学ぶことに興味を持っている SO スタッフや理事会、または、地元のボランティアが使用しています。ヤングアスリートのトレーニング DVD はオンライン ([www.specialolympics.org/youngathletes](http://www.specialolympics.org/youngathletes))でも手に入れることができます。

ヤングアスリートトレーニング DVD は、ヤングアスリートアクティビティガイドの付録として付いています。DVD は子供達が公式の活動を実際に行っている映像に、説明のナレーションが入っています。この映像は、子供や両親、教育者やコーチ、その他の人たちが、活動のことを知る手助けになります。

ヤングアスリートトレーニング DVD は、ヤングアスリートプログラムへのイントロダクションを含み、子供達・両親・教育者やコーチ、その他の人々を迎え入れます。

ヤングアスリートプログラムは、公式な活動を実施するために、特定の道具セットを使用します。アクティビティガイドには、ヤングアスリートの公式道具セットの写真があり、代用となる道具も紹介し、それぞれの道具の詳細も示されています。ヤングアスリートの道具セットは、オンライン([www.specialolympics.org/youngathletes](http://www.specialolympics.org/youngathletes))でも紹介しています。ヤングアスリートの道具セットを注文する方法についてのお問合せは、([youngathletes@specialolympics.org](mailto:youngathletes@specialolympics.org))までメールを送信してください。

スペシャルオリンピックスが、ヤングアスリートの公式道具セットの使用を推薦する一方で、セットに含まれている全ての道具は、ガイドの中に示されている道具で代用できることにも注目して下さい。

パワーポイントのプレゼンテーションは、このプレーブックとセットになっている CD に含まれていて、プログラムについてもっと学びたい SO スタッフや理事、ファミリーや地区ボランティアが使用することができます。

ヤングアスリートのパワーポイントプレゼンテーションに含まれる情報は下記の通り：

- ヤングアスリートプログラムの背景
- ヤングアスリートの現状
- ヤングアスリートの将来
- 評価と育成計画の必要性

### ヤングアスリートモデル：準備し、開始し、認知される

個々のヤングアスリートプログラムは、知的障害のある子供達に、発達に適した遊びの活動に参加する機会を提供するのですが、プログラムの規模も範囲も様々になり得ます。ヤングアスリートプログラムは、知的障害のある子供達やファミリーにとってスペシャルオリンピックスでの初めての経験です。ヤングアスリートプログラムは、家庭毎にファミリーや保護者が子供と一緒に活動を行うケースから、市内の全校区において小学校低学年の子供達に対し、体育の授業の一部として実施するケースまであります。

### ヤングアスリートプログラムに適したパートナー

- 個々のファミリーの自宅
- 親の監視下にある遊び場
- デーケアセンター
- 幼稚園
- 私立・公立学校
- 行政が運営するプログラム
- 居住環境（施設、グループホーム、孤児院）
- SO センター
- SO トレーニングや競技会との協力

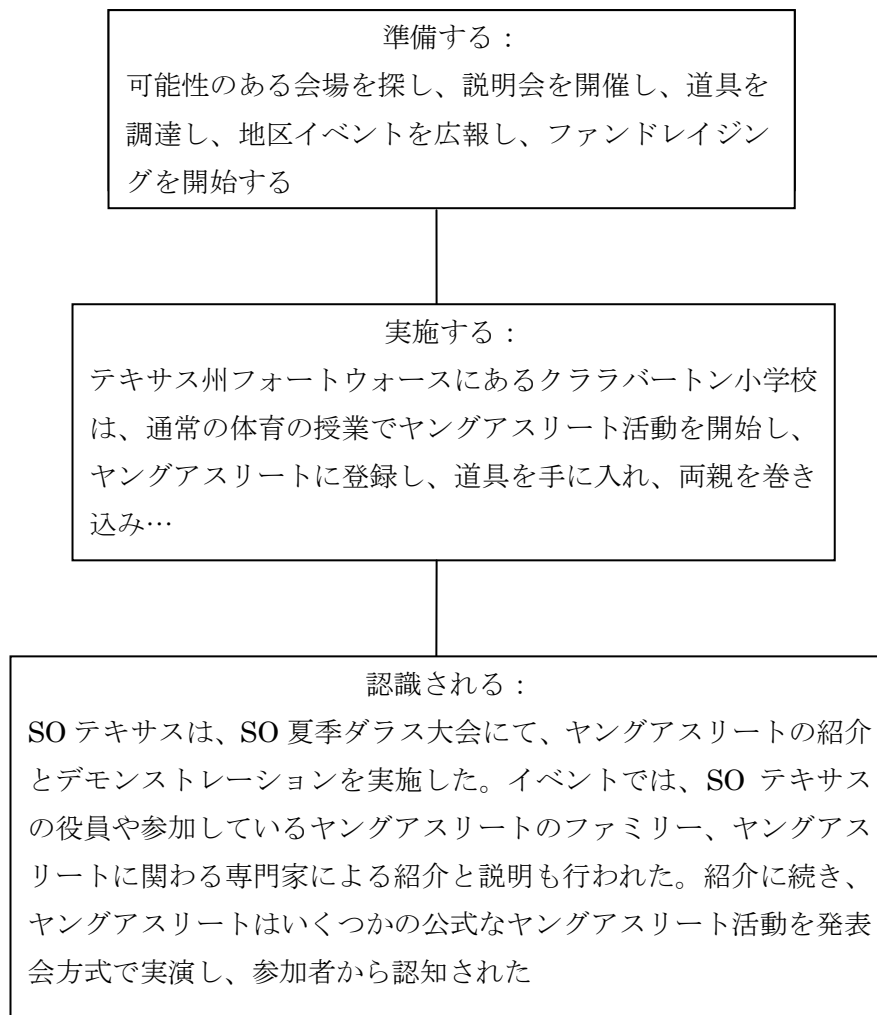
### 準備し、実施し、認知される

1. 準備する：全体的な運営上の管理と準備
  - a. ヤングアスリートプログラムが正しく理解されていることを確認する；
  - b. 知的障害のある子供達やファミリー、保護者がスペシャルオリンピックス活動に取り組める場を積極的に拡大する；
  - c. ヤングアスリートプログラムを発展させ設立するために、リーダーシップをとり助言を行う。ヤングアスリートコーディネーター<sup>1</sup>は、質の高いヤングアスリートプログラムの実行をサポートするため、地域において持続的な関係を確立するよう活動する；
  - d. アスリート登録や実施会場の評価、報告、PR 活動、ファンドレイジングイベント、その他ヤングアスリートプログラムの成功には必須な機能などの運営上の管理を行う；
  - e. 独自の目標、計画とアスリートの為の高いレベルの競技会との調整を図り、年間を通して州や国レベルでイベントが開催されるように国や州のスペシャルオリンピックス、地区組織での活動と協力／連携をはかる；
2. 実施する：様々なレベルでのヤングアスリートの紹介と開始
  - a. ヤングアスリートを、知的障害のある子供達を対象にプログラムを実施する全ての人やあらゆる人へ正確に紹介する

注1 「ヤングアスリートコーディネーターの役割」「ヤングアスリートを始めるにあたって」を参照。

- 例えば、子供達と一緒に自宅で活動をしたい両親向けの導入説明会を開催する
- b. ヤングアスリートの登録を促進する
  - c. 効果についての評価を始める<sup>2</sup>
  - d. ヤングアスリートの会場で、公式のヤングアスリート活動を含む頻度の高いプレーセッションを確実に案内する
3. 認知される：ヤングアスリートの成果を強調するイベントの管理と運営
- a. 地域のヤングアスリートコーディネーターによって行われている頻度と質の高いヤングアスリート発表会を紹介する
  - b. 州や国内すべての競技会において、ヤングアスリートの紹介とデモンストレーションを行う

### 実施中のヤングアスリート概要例



注2 詳しい情報は原文の「ヤングアスリートの登録、評価と報告」を参照のこと

ヤングアスリートプログラムを開始するにあたり重要な点は、準備し、実施し、認知されることです。下記に明記された3つのステップは、ヤングアスリートプログラムの土台を構成するのに必須な活動の概略と簡潔なリストです。これらのステップは、州や国レベルのスペシャルオリンピックス、地区組織レベルにおけるヤングアスリート主催者にとって重要です。これら全てのステップを遂行すれば、強力なヤングアスリートプログラムの成長と拡大を促進することとなるでしょう。

### ステップ1：計画

ヤングアスリートのコーディネーターを決める

- ヤングアスリートのコーディネーターは、ヤングアスリートの資料や背景、目的に精通している必要がある；
- ヤングアスリートのコーディネーターは、前述のモデルにて明確に示された3つの基本となる機能に責任をもつ：
  - 準備する：一般的な運営マネジメントと準備
  - 実施する：ヤングアスリートは様々なレベルで実施できることを紹介し、開始する
  - 認知される：ヤングアスリートの功績を強調するイベントを計画、実行する
  - ヤングアスリートコーディネーターは、活動を熟知しておくために活動を復習し、実演する

ヤングアスリート事業を計画する

- 計画の実施スケジュールを定める
- 計画の構成要素を確認する
- プログラムを実施する会場を探す方法
- ファンドレイジング
- ヤングアスリートのイベント
- 広報
- 予算

ヤングアスリートパートナーを確認し勧誘する

- 2歳から7歳の知的障害のある子供達と一緒に活動する潜在的なパートナーのリストを作成する
- 関係を築く
  - パートナーに連絡する
  - ヤングアスリートの概要を伝える
  - パートナーに参加を勧める
  - 勧誘したパートナーとヤングアスリートトレーニングを設定し、どのようにプログ



ラムを拡大するか、プログラムの目標と目的を説明する

# YOUNG ATHLETES

ヤングアスリート登録を促進する

- ヤングアスリートの登録プロセスを開始する際に、ヤングアスリートの実施会場を支援する
- ヤングアスリート登録の材料とデータの主要保管場所としての役割を担う

ヤングアスリートの進行係を育成する

- 準備は次のものを含む：
  - スペシャルオリンピックスの使命と哲学
  - ヤングアスリートの導入
    - －資料など
    - －活動
    - －道具
  - デモンストレーションの解説

ステップ2：実施

ヤングアスリートへの参加を開始する

- ヤングアスリート活動を始める

ヤングアスリートの説明会と発表会を行う

- ヤングアスリート実施会場を支援し、ヤングアスリート発表会を計画、実施する

大衆の注目を促す

- 広報としての成果を上げられるようにイベントを活用する。そして、より多くのヤングアスリートや潜在的なパートナーを勧誘する<sup>1</sup>

資金を集める

- ヤングアスリートの潜在的な寄付者を確認し参加を促す<sup>2</sup>

ステップ3：評価

プログラムを評価する

- ヤングアスリート評価のガイドラインにそってデータを集め編集する
- 全てのヤングアスリート登録情報を集め報告し、確実に適切な報告を行う
- ヤングアスリートの影響と機能について、関係者の情報を収集する
  - 進行係
  - ファミリー
  - 研究者

注1 詳しくは「ヤングアスリートの広報」を参照

注2 詳しくは「ファンドレイジング活動」を参照

ヤングアスリートを拡大する

- 新しいパートナーを探し、勧誘する
- 新しいヤングアスリートプログラムを開始する
- 経験ある進行係やファミリーに権限を与える
- 資金集めを強化する
- 継続的に評価する

## プログラムコーディネーターの役割

役割は次の通り：

- プログラムの実施を監督する
- 道具と活動を整備する
- プログラムと結び付く管理面での任務を監督する
- ヤングアスリートの実施会場とパートナーを見つけ勧誘する
- ヤングアスリート発表会を計画する
- 基金を確保するためにスペシャルオリンピックスのスタッフと協力する
- 登録やデータ収集、評価を実施する
- 広報活動を行う

資格：

- MS オフィスや編集機能のあるソフトウェアの使用経験
- 細部に気を配れる思考タイプ
- 事前に1年間のプロジェクト管理経験があることを推奨
- 知的障害のある子供達との経験
- 複数の業務をこなす能力
- エネルギッシュで活発、かつ親しみがあること

提案：

- ヤングアスリートをコーディネートする学生インターンを州／国の事務局で雇用する
- 活動にやる気を持って取り組んでいるファミリーと協力する
- 専門的なボランティアを見つける
  - 特別支援教育の教師
  - 作業療法士
  - 理学療法士

ヤングアスリートプログラムを紹介するために、保育園や幼稚園、小学校の教育者にこの手紙を送りましょう。その後、デモンストレーション（発表会）の日程調整を行うようにしましょう。

学校長様

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思えます。

スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年に世界中で試験的に実施され、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれ、家族や保護者も参加を促されます。もっとも重要なことは、ヤングアスリートは知的障害の有無によらず、子供達のためのプログラムであり、ともにスポーツすることに備えてスキルを発達させるためのものということです。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達に適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達の家族を、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加し、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力の認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートは、家族に子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

将来、スペシャルオリンピックスに参加するアスリートには、どのようなスキルが必要ですか？ヤングアスリートが発達を促すスキルのいくつかには次のものがあります：基本的なスキル、歩く・走る、投げる、蹴る、ボールをバウンドさせる・キャッチする、その他にスペシャルオリンピックスでアスリートとして参加したり競ったりするのに重要な上級のスポーツスキルも同

様です。

私たちは、子供達や家族と学校が、教室の内外で是非ヤングアスリートを楽しみ、その効果を経験して頂きたいと思っています。スペシャルオリンピックスには、ヤングアスリート DVD やプレーブックといったプログラムをうまく実施できるような資料があります。私たちは、【〇〇学校】の学校長をはじめ教員の皆様に、ヤングアスリートの利点や素晴らしさを知っていただくために、さらにはスペシャルオリンピックスがあらゆる年齢の子供達にとっていかに楽しい活動であるかを知っていただくために、ヤングアスリートのデモンストレーションを実施したいと考えています。

興味をお持ちいただけの場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡ください。デモンストレーションの実施について具体的な調整をさせていただきます。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピックス名または肩書】

# YOUNG ATHLETES

この手紙は、地域の障害者団体や関連組織にヤングアスリートやスペシャルオリンピックスについて紹介する時に使用して下さい。

〇〇 様：

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思えます。

スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年に世界中で試験的に実施され、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれ、家族や保護者も参加を促されます。もっとも重要なことは、ヤングアスリートは知的障害の有無によらず、子供達のためのプログラムであり、ともにスポーツすることに備えてスキルを発達させるためのものということです。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達に適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達の家族を、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加し、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力の認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートは、家族に子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

将来、スペシャルオリンピックスに参加するアスリートには、どのようなスキルが必要ですか？ヤングアスリートが発達を促すスキルのいくつかには次のものがあります：基本的なスキル、歩く・走る、投げる、蹴る、ボールをバウンドさせる・キャッチする、その他にスペシャルオリンピックスでアスリートとして参加したり競ったりするのに重要な上級のスポーツスキルも同様です。

私たちは、子供達や家族と地域社会が、教室の内外で是非ヤングアスリートを楽しみ、その効果を経験して頂きたいと思っています。スペシャルオリンピックには、ヤングアスリート DVD やプレーブックといったプログラムをうまく実施できるような資料があります。私たちは、ヤングアスリートのデモンストレーションを、貴会の皆様にヤングアスリートの利点や素晴らしさを見ていただくために、さらにはスペシャルオリンピックがあらゆる年齢の子供達にとっていかに楽しい活動であるかを知っていただくために、実施したいと考えています。

興味をお持ちいただけの場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡ください。デモンストレーションの実施について具体的な調整をさせていただきます。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピック名または肩書】

# YOUNG ATHLETES

この手紙は、ボランティアの方々にスペシャルオリンピックスやヤングアスリートについて理解してもらう時に使用してください。

〇〇 様：

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思えます。

スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年に世界中で試験的に実施され、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれ、家族や保護者も参加を促されます。もっとも重要なことは、ヤングアスリートは知的障害の有無によらず、子供達のためのプログラムであり、ともにスポーツすることに備えてスキルを発達させるためのものということです。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達に適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達の家族を、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加し、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力の認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートは、家族に子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

将来、スペシャルオリンピックスに参加するアスリートには、どのようなスキルが必要ですか？ヤングアスリートが発達を促すスキルのいくつかには次のものがあります：基本的なスキル、歩く・走る、投げる、蹴る、ボールをバウンドさせる・キャッチする、その他にスペシャルオリンピックスでアスリートとして参加したり競ったりするのに重要な上級のスポーツスキルも同様です。



私たちは、子供達や家族と学校が、教室の内外で是非ヤングアスリートを楽しみ、その効果を経験して頂きたいと思っています。スペシャルオリンピックスには、ヤングアスリート DVD やプレーブックといったプログラムをうまく実施できるような資料があります。きっとヤングアスリートの利点や素晴らしさ、さらにはスペシャルオリンピックスがあらゆる年齢の子供達にとっていかに楽しい活動であるかを経験して頂けると思います。

スペシャルオリンピックス・ヤングアスリートにおけるボランティアにご興味をお持ちいただけただけの場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡ください。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピックス名または肩書】

目的：ヤングアスリートに参加している子供達の成果を認識し、より広い地域でヤングアスリートプログラムを紹介し、新たなファミリーやヤングアスリートをスペシャルオリンピックスへ勧誘すること

**提案：**

- スペシャルオリンピックス、ヤングアスリートのロゴと、ヤングアスリート・グローバルスポンサーのロゴは、イベントにおいて道具や広告、看板に表示されなければならない
- 子供達によって実演される公式なヤングアスリート活動のデモンストレーション
- 子供達への参加証（Tシャツやリボン、修了証など）

**計画：**

- ヤングアスリートデモンストレーション(発表会)を夏季大会や学校の運動会など、既存のイベントへ組入れることで人々に参加しやすくします。イベントを宣伝し記録するのに適したステップを踏んでください。
- 子供達のファミリーにイベントへの出席と参加を促します。

**構成：**

- デモンストレーションでは、プログラムへの導入として説明を行って下さい
- 子供達と一緒に1時間半ほどの活動を計画してください
- 1つの公式ヤングアスリート活動に対し、4～5種類の運動を準備すれば、子供達の様々な能力を発揮させることができます
- 子供達のファミリーに参加を促してください
- アスリートやファミリーの頑張りを広く知ってもらうために、メディアを誘致してください
- この活動のことを知り、理解してもらうために早期療育に取り組んでいるグループを招待してください

ヤングアスリートのデモンストレーション（発表会）とイベントは、参加者の功績を披露し、ファミリーや教育者、専門家や潜在的なサポーター、メディアや地域社会の中でヤングアスリートが広く認知されるように作られており、プログラムの集大成として実施されることもあります。2006年の取組みの中では、SO 国際本部は公式ヤングアスリートのデモンストレーションをラテンアメリカ（エルサルバドル）、北アメリカ（アイオワ）、東アジア（中国）のリージョナル大会やそれと同等な大会にて計画しました。しかしながら、ヤングアスリートプログラムが試験的に実施されている世界中の各国プログラムは、その革新的なアプローチを通じて、新規構想の主旨を明るみに出すにとどまりました。

試験的に実施していた会場はどこでも、少なくとも一度はヤングアスリートイベントまたは発表会を実施することが必要条件とされていました。しかしながら、多くのプログラムは大幅にその条件をクリアしていて、加えて3-6のイベントを実施しました。全体を通してリーダー的な存在だったルーマニアとデラウェアは、それぞれが2006年に7回と5回のイベントを実施しました。“ヤングアスリート・ファミリーデー”や“未来のスターによるスポーツデー（Future Stars Sports Day）”のような様々なイベント名に関わらず、全てのプログラムは、プログラム参加者とそのファミリーの関係を強調する内容の取組みを行っていました。

例えば、SO ルーマニアのイベントの一つは、“ヤングアスリート・フォーラム”として企画されました。このフォーラムは、22人のファミリーと19名のヤングアスリート、知的障害のない数名の子供達と理学療法士、特別教育の教師を含む参加者が集まりました。フォーラムの間、ファミリーは各々の経験談を共有する機会が与えられました。イベントの結びに、SO ルーマニアは、ヤングアスリートのアクティビティガイド、DVD、パンフレットを参加者全員に配布しました。この“ヤングアスリート・フォーラム”は、ファミリーや教育者がヤングアスリートと交流する方法を実演すると同時に、アスリート達の能力を見てもらう機会にもなりました。

同時に、SO テキサスは、テキサス全土において“未来のスターによるスポーツデー”をうまく広報しながら4回実施しました。このイベントは、ダラス、カイル、フォートウォースやラフキンにある教育センターや学校において開催されました。公式ヤングアスリートプログラムの活動に加え、“未来のスターによるスポーツデー”では、ダンス、リレー競争、キックボール、雪合戦、表彰式も行われました。SO テキサスは、いくつかの歌を作り、それに振り付けをして参加者皆で踊れるようにしました。

SO デラウェアも、“ヤングアスリート・アクティビティデー”を5回行いました。デラウェアのイベントでは、本格的な開会式（エンターテイメントやトーチの到着、参加者

宣誓を含む)が行われました。デラウェアの活動は、“ステーション”形式になりました。例えば、“リーチ学校ヤングアスリートデー”では、参加者は7ヶ所の“ステーション”を使用しました。1つ目のステーションは“ボディソックス”、ステーション2と3はスカーフを使ったダンスや自転車乗り、ステーション4は“T ボール”、ステーション5～7はリレー競争、体を動かすゲーム、ボールやバッグのトス等でした。各ステーションは、15分ほどで終了しました。2時間ほどのイベントプログラムへの参加の後、両親や兄弟は公式の閉会式に参加しました。

SO イリノイでのヤングアスリートイベントは、数週間から数カ月のトレーニングと練習の後に開催されます。アスリートは、イベントに先立ち、最低8週間のヤングアスリートトレーニングに参加する必要があります。イベントは、州全土において1年中の多様な時期に開催します。しかしながら、多くの学校は9月に学期が始まり5月に終わり、それに合わせてトレーニングをするので、春にこのイベントを主催することが多いです。そのイベントには少ない時で5人、多いときには450人のヤングアスリートやファミリーが参加しました。このイベントはSO イリノイ夏季大会でも実施されることになりました。

アメリカ国外におけるスペシャルオリンピックスでは、“ヤングアスリート・ファミリーデー”は、新たなパートナーシップや今までの関係をより強化する機会となりました。パラグアイでは、4回開催するヤングアスリート・ファミリーデーの内の1つが、スポーツの国家事務局によって主催されました。その一方で、ルーマニアでは、7回行ったヤングアスリート・ファミリーデーは、アメリカ平和部隊の代表者達と、地元の非営利活動団体の協力のもと実行されました。

1. 見込みのある寄付者のリストを編集します。まずはヤングアスリートかスペシャルオリンピックスとつながりのある個人や企業から始めます。直接関わったことがある、これまでに支援を受けた、または、ヤングアスリートの支援に興味がありそう等です。次に、ヤングアスリートにふさわしく、今までに一緒に活動したことのない企業や個人に注目します。
2. 適切な担当者（オーナーや地域活動のトップ、店舗マネージャーなど）を見つけ、見込みを調査します。そして、適切な寄付依頼を決定します。例えば、金銭的な寄付の見込みがあるのか、それとも、現物寄付の見込みなのかです。金銭または現物寄付、どちらがより利益を得ることができるかを決めます。例えば、印刷会社であれば、金銭より印刷サービスを寄付として提供することに、より興味を示してくれます。そして、印刷での寄付協力は、多くの金銭を節約することにつながります。レストランは、おそらく、小切手を書くよりイベントへ食物を寄付してくれるでしょうし、小売店や銀行は、製品よりも金銭を寄付してくれるはずで、企業や個人が提供しやすい寄付依頼をすることが、成功への近道です。自由に創造して下さい。小さな企業や個人が、プログラムを支援することができるような独自の方法を考えてください。それは、製品であり、金銭であり、場所、ボランティア、専門知識、広告など様々な可能性があります。
3. 次の要素を含む潜在的な寄付者やサポーター向けの情報を準備してください。
  - プログラムの詳細や目的を記した案内文書、地域のどのくらいの人々がこのプログラムに影響を受けたかなどの量的な情報、求めている支援の詳細な量や種類、それらがどのように使われるかの詳細、そして、あてはまる場合は、寄付がどのように顕彰するか（スポンサーとしてTシャツに、または、寄付者としてウェブ上に名前が記載される等）
  - プログラムに参加したことのある人の推薦文や言葉の引用
  - 活動に参加しているヤングアスリートの写真
  - 通常の運営への支援を求めるのであれば、寄付がどこで使われる予定であるのか、寄付がもつ影響力を伝えるために、予算やプロジェクトの発展計画のコピーを提供してください。
  - パンフレットやチラシ、イベントカレンダーやプログラムを促進するその他の印刷物
  - これまでの支援者の顕彰（あてはまる場合）
4. 可能な場合はいつでもアポイントメントを設定し、支援してもらえるかの可能性を話し合います。（可能な時は、打合せで力添えをしてくれるヤングアスリートのファミリーに同行してもらいましょう）打合せが可能でない場合は、メールや資料を送り、

電話でフォローアップします。手紙の中でこちらがフォローアップする旨を伝え、時間枠を伝えます。資料を受け取った後に、先方が連絡してくることを望んではいけません。

**プロジェクトを定義する：**

- ・個人や企業、財団や団体に資金や現物での寄付を求める前に、SO 日本や地区組織の事務局に連絡をとり、どのようなファンドレイジング活動が許され、望まれているのかを知らなくてははいけません。
- ・SO 日本や地区組織の事務局と一緒に、グループや委員会を集め、プロジェクトを定義したり、スポンサーにとってのメリットを提案したりすることについてのサポートや助言を得ます。

**スポンサーへの寄付依頼が承認されたら、潜在的なスポンサーへの提案は：**

- ・特徴ではなく、メリットを宣伝してください。  
(例えば、“プールがオリンピックサイズです”ではなく、“顕彰やVIP チケット”)
- ・こちらの需要ではなく、将来のスポンサーの需要を伝えます。  
(“アスリートの数を増やすこと”ではなく、“マーケティングやビジネスの目的”)
- ・スポンサーの事業に合わせます。(例えば、航空機や飲料、アパレルや自動車など)
- ・スポンサーのリスクを最小限にします。(過去の成功を提示したり、製作物や旅費を安く済ませたりするようにする)

**成功する提案は：**

- ・こちらの予算を提示しません
- ・1つ1つのメリットがスポンサーにとってどんな価値があるかを説明しません
- ・映像資料は使いません
- ・実施や製作に費用がかからないように見せます

**販売プロセス**

電話やプレゼンテーション、契約交渉や、基準の設定、契約の締結の際にセールステクニックを使いつつ、調査したりや見通しを定めるなど、セールスプロセスにはいくつかの段階があります。

**ターゲットを見つけるのに役立つ調査と手段**

- ・インターネットや情報サービス、図書館
- ・新聞：ビジネスとマーケティングの欄
- ・産業貿易新聞
- ・協会、団体やクラブなどとのネットワーク
- ・ラジオ・印刷媒体・テレビ
- ・商工会議所、業界団体

#### ターゲットとするスポンサーを決める：潜在的なスポンサーと連絡先を確認する

- ・一般にスポンサー支援やスポンサー関係のイベントを提供している企業にターゲットをあてる（例えば、スポーツや特別な人への特別なプロジェクト<sup>1</sup>など）
- ・他のスポーツや慈善団体のスポンサーをターゲットにする
- ・他のスポーツや慈善団体の競争団体をターゲットにする
- ・自団体の観衆の人口統計や購買習慣に基づく企業をターゲットにする
- ・新規または増加傾向にあるスポンサーカテゴリーをターゲットにする
- ・団体のファミリーやボランティア、友人など、可能性のある有利なつながり

企業における意思決定者を確認してください。この業務は時間を要することもあるので、忍耐強く対応してください。きっと多くのカテゴリーについて同時に提案を出したくなると思います。プロセスはとても長い道のりとなりえます。12回電話をかけて、うち1件でよい反応を得られるほどのものであると考えられています。

#### ミーティング

電話で担当者と話をしたら、ミーティングを30分だけお願いすることが目標です。こちらの提案に対しての修正案の提示と計画を準備しておいてください。

もし、ミーティングの約束がとれない場合は、その企業用に作った提案書を郵送し、電話にてフォローしてもよいかを聞いてください。企業内で鍵となる担当者を他に探し始め、誰にアプローチをするのが一番適しているかを知っている人を見つけ出します。

#### ミーティングを約束するための電話

- ・企業が何を求めているかを常に質問してください。
- ・企業のビジネスの目的と自身のプログラムで達成し得るマーケティングの目的を知ってください。
- ・ミーティングの時間配分の提案
- ・機会の紹介（20%）
- ・利点を提示します（70%）
- ・まとめ（10%）

ミーティングが終わる際に、次のステップを以下から決定してください：

- ・フォローの電話
- ・より多くの資料
- ・修正された提案
- ・改めてのミーティング
- ・他の担当者とのミーティング

注1 スペシャルオリンピックスは、アルコールやたばこ製品に関わる企業との関係に、制限を課しています。アスリートの競技用具やユニフォームへの企業ロゴの使用に関する詳細なルールもあります。SO日本と地区組織の事務局とこれらの問題について詳細を話し合い、スペシャルオリンピックスのゼネラルルールに基づく計画と行動をとってください。



良い販売ツール：

- ・その企業に関する下調べを常に行っておく
- ・自身の組織に関する良い統計やスポンサーシップの成功例を準備しておく
- ・読みやすいメリットや機会についてのパンフレット、パワーポイントでのプレゼンテーション、1 ページでの資料を作っておく
- ・写真やクリップ記事、過去のプロモーションや功労、プログラムの統計や歴史でいっぱい iPad 等で見せる資料やスクラップブックを作っておく
- ・ポイントを明記した書類を、一緒にセールス電話をする人向けに作っておく。そうすることで、彼らも準備をすることができる
- ・上映できるようにビデオ自体を持参する

時間/タイミング

多くのケース（61%）が、知らない人に電話をかける（“冷たい電話”と呼ばれる）ことから始まります。企業の決算時期を理解し、予算が決定する前に電話や提案をしてください。

年間のプログラムへのスポンサーシップを開拓するのに、平均で 12 カ月かかります。1 つのイベントへのスポンサーシップ計画は 6 カ月と見積もられています。計画と決意、忍耐が、最も必要とされます。

この手紙を、スペシャルオリンピックスとヤングアスリートについて理解してもらうために、寄付者や支援者に送ってください。

〇〇 様：

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思えます。

スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年に世界中で試験的に実施され、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれ、家族や保護者も参加を促されます。もっとも重要なことは、ヤングアスリートは知的障害の有無によらず、子供達のためのプログラムであり、ともにスポーツすることに備えてスキルを発達させるためのものということです。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達に適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達の家族を、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加し、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力の認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートは、家族に子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

将来、スペシャルオリンピックスに参加するアスリートには、どのようなスキルが必要ですか？ヤングアスリートが発達を促すスキルのいくつかには次のものがあります：基本的なスキル、歩く・走る、投げる、蹴る、ボールをバウンドさせる・キャッチする、その他にスペシャルオリンピックスでアスリートとして参加したり競ったりするのに重要な上級のスポーツスキルなども同様です。

## 3 プログラムの実践

### 3.4 寄付者と支援者を募るための概略

#### 3.42 スポンサーや支援者への手紙例

私たちは、子供達や家族と地域社会が、教室の内外で是非ヤングアスリートを楽しみ、その効果を経験して頂きたいと思っています。スペシャルオリンピックには、ヤングアスリート DVD やプレーブックといったプログラムを上手に実施できるような資料があります。私たちは、ヤングアスリートのデモンストレーションを貴社の皆様にヤングアスリートの利点や素晴らしさを見ていただくために、さらにはスペシャルオリンピックがあらゆる年齢の子供達にとっていかに楽しい活動であるかを知っていただくために、実施したいと考えています。

興味をお持ちいただけの場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡ください。デモンストレーションの実施について具体的な調整をさせて頂きます。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピック名または肩書】

3 プログラムの実践  
 3.4 寄付者と支援者を募るための概略  
 3.4.3 ファンドレイジング書式例

ファンレイジング活動	日程 締切り	責任者 担当委員会	会話内容 アプローチ/計画 フォローアップ戦略
スペシャルイベント イベントの実行委員会と代表者 連絡先/施設の管理者名 スポンサー/座席の管理者名 演説管理者 花/食品/装飾/音楽の管理者名 招待状郵送日程管理者名 返信期日 整理 フォロー/礼状作成担当者名			
企業スポンサー 見通し確認者 戦略担当者 依頼提出者 サービススポンサーシップ 御礼/顕彰 更新者			

ヤングアスリートプログラムは、世界中で多くのメディアの注目を集めています。メディアに注目されることは、スペシャルオリンピックスのメッセージを広め、若い年代の知的障害のある人々の驚くべき才能を強調する機会となります。したがってヤングアスリートプログラムを促進するには、強固な PR 計画を確立することが必須です。

メディアとよい関係を築いている組織は、より多くの報道の興味をひく可能性が高いのです。締切りに追われている報道関係者は、組織や情報源として信用できて近づきやすい具体的な連絡先に注意を払っています。メディアが世論において強い影響を持つことを考えると、報道関係者との関係を築くことがいかに重要か気付くはずで

報道関係者との関係を構築するには、最初は時間を要します。しかし、各国プログラムにとってそれは計り知れないほどの恩恵となるでしょう。記者はヤングアスリート活動を扱うだけでなく、スペシャルオリンピックスのイメージを傷つけうる危機的状況や不正確な描写、敏感な問題にも理解ある反応をするようになります。

このセクションは、メディアに対してアプローチできることの概観を提示しています。これらによって、メディアとよい関係を築き保つ方法、メディアと近づくための秘訣や、活動を広報する素材として使用できる様々な広報媒体の概要を知ることができます。

### 記者との協力

このステップ毎のアウトラインは、メディアやとりわけ締切りに追われている記者と協力する上での見識を提供します。記者は概して継続的に連絡を取り合うことが難しく、連絡したとしても話す時間はほとんどありません。それゆえに、プロセスに従い、記者が好む形態を使用することが、信頼関係を築くことにつながります。

#### ステップ1：ストーリーは何？

準備をし、記者に何を伝えたいかを知ることが、前向きな関係を作り出す第一歩です。記者に電話をする前に、下記のことを手元に準備してください：

- 記者に何を扱ってほしいかの明確で簡潔な詳細
- 記者に扱ってほしいトピックについての文書情報（プレスリリースやメディアアラート、ファクトシートなど）
- ストーリーに関係のある地元情報

#### ステップ2：メディアリストを作成する

多くの広報担当者は、いわゆるメディアリストを持っています。それは、誰が特定のプログラムやイベントに興味があるかという連絡先のリストです。一般的に、編集者やプロデューサーに直接情報を送ることは可能ですが、反応の確率は低いことに気付くでしょう。反応を得る機会を増やすために、誰にコンタクトをとればよいかを知ることは重

要です。

メディアリストを作る際に、地域の日刊・週刊の新聞や、ラジオ、テレビ局、雑誌やその他のメディア媒体を確実に入れてください。

ヤングアスリートプロジェクトをどのリポーターが扱ってくれるかを見つけ出すために、あなたは次のことができます：

- ・メディア要覧を参照します・・・これらは通常、大都市圏で参照可能です。公立図書館は通常これらの要覧を参照セクションに設けています。または、オンライン検索ももう一つの情報源となるでしょう。
- ・放送局や出版社に電話します・・・受付または割付担当者は、適切な担当者名と連絡先情報を教えてくれます。
- ・地域の新聞や雑誌を読み、テレビを見ます・・・スペシャルオリンピックスや関連することについて、報道してくれそうなリポーターの執筆者名（出版物名）やテレビ、ケーブルテレビのリポーター名をメモしておきます。これは、リポーターのスタイルや、彼らが何をニュースとみなすのかについての見識を深める手段でもあります。

メディアリストを作る際に必要な情報：

- ・メディア会社名
- ・リポーターや編集者名
- ・電話番号
- ・ファックス番号
- ・メールアドレス
- ・郵送用住所
- ・リポーターや編集者が好む連絡方法についての情報
- ・リードタイム（企画から執筆までにかかる時間）
- ・締切日

ステップ3：前もって情報源を準備する

記者の質問への回答と、情報を含めた会話の流れを準備します。以下が必要と思われるツールの概要です：

- ・プレス（またはメディア）キット・・・ヤングアスリートの背景、ヤングアスリート主要会場名とイベントを含む情報セットで、必要があれば写真も含まれます。プレスキットは通常予め郵送しておき、イベント詳細キットは、イベントにおいて配布します。
- ・メディア・アドバイザリー（メディアアラート・ニュース報告・チップシートといわれることもある）・・・ヤングアスリートイベントに関わる基本的な事実の簡

潔な概略のことで、時間に余裕がない時や印刷された招待状が必要とされない時、または新たな情報が公開される時などに使用されます。ことの性質上、報告は通常 FAX または E メールにて送られます。

- ・プレス（または、ニュース）リリース・・・ヤングアスリートのニュースや情報を公表するために使われます。通常は1ページ（3ページ以上になることはない）で、送付方法は、記者の希望により、ファックス、Eメール、郵送があります。
- ・問合せ（または「売り込み」）レター・・・提案書、売り込むための手紙のようなもので、このトピックが取材するに値すると編集者に提案します。本質的にプレスリリースと同内容のようですが、形式が異なります。問合せレターは通常、最初の通信文となり、郵送されます。
- ・写真・・・放送局や印刷物のメディアは視覚を使ってストーリーを伝えます。そのため、ヤングアスリート活動の詳細を把握できる写真を渡すことが重要です。

ステップ4：ストーリーやイベントを「売り込みます」

連絡するべき人との最初の接触は、リードタイムを考えた上で行うべきです。記者にイベントのプレスリリースと併せてプレスキットを送付します。イベントの1-2週間前になったら、記者にメディア・アドバイザーをEメールまたはファックスで送信します。1-2日後に、売り込みを始めたり、連絡するべき人に電話をかけたりします。「売り込み」は、記者にストーリーを「売る」ための広報用語です。

売り込みをする時の最終目的は、重要な事実を伝えながら、わずかな言葉で記者の注目を引き付けることです。記者に連絡を取る前に10~15秒で売り込めるよう準備することはよい練習になります。なぜなら、最も重要な事実のみを伝えることを求められることもあるからです。

- ・全てを丸投げせず、十分な情報を提供してください。イベントの直前に記者にリマインドさせるためのメディア・アドバイザーに、いくつかの事実はとっておいてください。
- ・ストーリーの位置づけを明確にしてください。そうすることで、地域に関連づけられ、報道価値のあるものになります。これを達成するために、それぞれの報道局の聴衆について考えることから始め、聴衆の観点からストーリーを組み立てます。
- ・プレスリリースや報告用に目を引く短い見出しを作ります。長い見出しは重要な情報がたくさんある場合にのみ使用可能です。メディアの注目を集める場合に限り、見出しの中に誰もが知っているような著名人や地元の英雄、地域のリーダーや企業の取組みを入れてください。

メディアに電話する際の台本例

もしもし（または、好ましい挨拶）、私はスペシャルオリンピックスの〇〇と申します。

お忙しいでしょうか？

または、今お話しできますか？少々お時間をちょうだいしたいのですが。

もし、記者が締切りに追われているまたは、今は話す時間がないと言った場合：

御社の読者に興味を持ってもらえそうなヤングアスリートプログラム/イベントについてご紹介したいのですが、お話しするのにご都合のよい時間を教えて頂けませんか？または、

その間に、情報をお送りしたいのですが、あなたのメールアドレスまたはファックス番号を教えてくださいませんか？

ご説明したいのですが、電話してもよろしいですか？いつでしたら、お電話のご都合がよろしいでしょうか？

〇〇さん、ありがとうございます。〇〇日にお話しできるのを楽しみにしています。

記者が電話に出なかった場合、次のメッセージを残します：

お世話になります。〇月〇日に〇〇で開催される〇〇イベントについてお電話しました。このイベントには〇〇人の参加者を予定しています。もしご興味がおありでしたら、プログラムディレクターや参加者数名とのインタビューを喜んで設定いたします。

**秘訣：**多くの記者は午後に締切りが設定されているため、午前10時から午後1時の間に売り込みをするのがベストです。放送中にテレビ局に電話をするのはさけてください。

**秘訣：**記者との電話での接触を保ち、メディアリストを最新の状態に更新しておきます。イベントに誰が来るのかと、それとは別に誰と話しているのかを明確にしておきます。

ステップ5：イベント前に記者にフォローアップします

記者は非常に多くの情報を受け取り、様々なイベントを扱うよう求められるため電話連絡でフォローアップすることが好ましいです。その際は、イベントを売り込むことから始めずに、コミュニティにとってのヤングアスリートやそれに準ずるヤングアスリートイベントの重要性を繰り返し伝えます。

ヤングアスリートイベントの前日に、メディア・アドバイザーに地元のメディア日記やコミュニティカレンダーをファックスします。リリースは、特定の日時まで制限される可能性があります。記者がプレスリリースで情報を目立ってリリースできる時に、時間や日程を設定してください。

記者がイベントに参加できない場合でも、記者はプレスリリースにおいて提供された情報に基づいたストーリーを描くかもしれません。興味を示したメディアへのリマインダー用の電話を事前準備としたいと思う人もいるでしょう。それは、テレビメディアにつ



いては特に事実です。そして、イベント開始の数時間前まで、イベントを扱うか否かを決定しないことがあるのです。

**秘訣：**もし午前中にプレスイベントがある場合、テレビ割当デスクに最後の手短な電話を一通りしてみてください。放送会社グループや地元の放送局は、カメラクルーの割当をするために、午前9時～9時半の間に打合せをもつことがよくあります。

ステップ6：イベントにおいて記者と双方向に協力し合います

ヤングアスリートイベントにおいて、イベントを扱っている記者には、名刺とプレスキットを準備し、挨拶をしてください。どのメディアがイベントに参加してくれているか記録しておくために、プレス用の受付を設けてください。

イベント中は、重要な課題を取り上げるなど、重大なメッセージを発信するアスリートを配置してください。地元のプログラムが成長するにつれ、グローバルメッセンジャーを養成し、記者に効果的にアピールできるアスリートスピーカー要員を増やしていきます。

ステップ7：フォローアップします

プレスリリースやメディア報告を送付して2日以内に、フォローアップを行います。イベントの後にイベントに参加したリポーターに電話をし、追加の質問がないかを確認します。イベントを扱ってくれたことへの御礼に、簡潔で心のこもった手紙を送ることも忘れないでください。イベントに参加しなかった記者には、実際のイベントについての情報を受け取ることに興味がないかフォローアップすることも効果的です。参加せずに記事を書く記者がどんなに多いことか、驚くかもしれません。

**メディアと協力する秘訣**

- ・プログラムの視点または大衆の関心の視点から話したり書いたりします。
- ・ニュースを扱いやすく読みやすくします。専門用語や俗語、聞きなれない略語や技術的な用語を使わないでください。
- ・事前準備をしてください。記者に直接話すことができる場合であろうとメッセージを残さなければならない場合であろうと、予め10-15秒の売り込み文句を準備してください。売り込みは、どちらの場合にも気を引くようなものでなければなりません。
- ・要点まで踏み込んでください。記者は事実を知りたいと思っています。
- ・注目をひくために、短いけれど目を引く見出しを考えてください。長い見出しは、全てが重要な情報の場合に限って可能です。メディアの注目を引く場合に限り、誰もが知っている著名人や地元の英雄、地域のリーダー、企業の取組みを見出しで強調してください。
- ・最も重要な事実を繰り返し述べてください。電話越しに記者へ記事の情報を伝え

ようと、インタビューの間に返答しようと、強調すべき点を知っておき、何度も繰り返してください。詳しく述べるように求められたら、強調すべき点の裏打ちとなる具体例や証拠を提示しながら行ってください。一方で、話の要点から脇道にそれるような質問をされた場合は、主な目的や目標（あるいはスペシャルオリンピックスの使命）から始めることで再度会話に焦点をあててください。

- 記者と議論したり、感情的になったりしないようにしてください。記者にとっては、こちらのストーリーを理解させられることは、特に締切りに追われている場合にストレスになりえます。落ち着いて事実にも忠実になってください。記者との関係が損なわれると、将来的に広報面での損失に繋がってしまうでしょう。
- 回答がわからない場合は、そのように伝え、あとで記者に回答するようにします。例えば、記者がストーリーの情報を集めていて、それを裏打ちする統計を必要とする状況にでくわすかもしれません。もし、数字を把握していない場合は、記者に締切りがいつであるかを聞き、回答が準備でき次第、返事をするようにしてください。（メディアとの信用性と同様に、強いつながりが重要なことを忘れないでください。）
- フォローアップします。

メディア関連計画の例

イベント：ヤングアスリートデモンストレーション

イベント日程：5月16日～19日

メディア販路

印刷メディア	方法	実行スケジュール	メモ
新聞（週刊・日刊）	日程発表	4/1 送付	
	特集ストーリー	4/16 質問状送付 4/24 フォローアップ ストーリー提案継続	
	写真	5/13 撮影デスクに メディアアラート送付 5/14 電話にてフォローアップ	
	編集者へ 手紙送付	5/20 ボランティアへの感謝状 送付	
	イベントの 特集コラム	1/10 新聞社へ提案書を持って 連絡	
雑誌	写真付き ストーリー	1/15 情報と質問状を送付	

報道メディア	方法	実行スケジュール	メモ
テレビ	特集 ストーリー	5/1 リリース送付	
	スタジオ内 インタビュー	5/8 電話	
	スポーツ	5/13 電話	
	その他週刊 特集番組	5/6 電話	
	朝の情報番組	5/6 電話	
雑誌	遠隔ラジオ	3/22 イベントからの放送を行う ラジオ局への招待の電話	

インターネット	方法	実行スケジュール	メモ
ウェブサイト	大会を宣伝して くる可能性のある サイトの調査	4/1 までにウェブサイトに連絡	
SO 日本や地区組織の ホームページ	大会につながる ストーリー	大会まで毎週新しいストーリーを アップする	

その他の宣伝方法

宣伝方法	計画	実行スケジュール	メモ
ポスター	ボランティアへ 「行動しよう！」と 書かれた大会紹介 ポスターの配布	4/5 までに寄付	
チラシ	大会紹介チラシを 地元のお店の 買い物袋に入れる	4/5 までに店舗へ配布	
スポンサーの コミュニケーション 手段	スポンサーへニュース レター、ウェブサイト、 内部メールで大会紹介 と情報提供。大会後に スポンサーへ写真と ストーリーを送付。	2/1 から月毎に情報配信。 5/20 の週に写真とストーリーを送 付	

イベント直前リリース

連絡先：ジェーン スミス、(515)555-1234

### スペシャルオリンピックスの2～7歳児向けプログラムの紹介

アイオワ州エームス 2005年7月1日

スペシャルオリンピックス・アイオワ (SO Iowa) は、ヤングアスリート\*のアイオワへの上陸をお知らせできることを非常にうれしく思います。ヤングアスリートは、2歳から7歳の知的障害のある子供達のためにスポーツを基に開発された遊びのプログラムです。

ヤングアスリートは、身体・認知そして社会性の発達を育成することを目的とした発達に適した遊びの活動であり、対象は知的障害のある子供達です。そして、その家族は、スペシャルオリンピックスのサポートネットワークに迎え入れられます。仲間の参加（インクルージョン）や発表会、その他のイベントを通して、知的障害のある子供達の可能性について、認知度を上げます。このプログラムは、個人の家庭から教室、地域活動など、様々な環境下で実施可能です。ヤングアスリートは、その家族が子供達の成長をサポートするコミュニティネットワークに入る機会となることを狙いとしています。

プログラムは、週に3回ジケーターにあるスペシャルオリンピックス・アイオワのトレーニング施設で行われる予定です。現在、登録受付中で、対象は2歳から7歳の子供を参加させたいと希望するファミリーです。ヤングアスリートのセッション中にボランティアとして参加する兄弟や家族の方も募集しています。お子様の参加やプログラムをサポートするボランティアに興味がありましたら、ウェブサイト ([www.soiowa.org](http://www.soiowa.org))、または電話(1-800-555-2346)までお願いします。

\*ヤングアスリートは、ギャング・ファミリー財団やリンチファミリー財団、マテル子ども財団からの基金を通して、スペシャルオリンピックスが開発したスポーツと遊びのプログラムです。

将来への気付き

ヤングアスリートは子供達をスペシャルオリンピックスへ導きます

サリー・レモン著

スペシャルオリンピックスアスリートの次世代を受け入れる準備をしましょう！昨年、スペシャルオリンピックスは、知的障害のある子供達向けの革新的な遊びのプログラムであるヤングアスリート™を試験的に実施しました。ヤングアスリートとは、スペシャルオリンピックスにおいて競技会に参加できる8歳という年齢に達する前の子供達をスポーツの世界へ導くために作られたプログラムで、世界中の子供達やファミリーに機会と希望を与えています。

ヤングアスリートに参加している子供を見ている間、一人の親が言いました。「それぞれの子供が応援されることを必要としていること、可能性があることに初めて気付きました。そして、授かった子供には障害があり、同時にその子がどれだけ能力を秘めているかを、夫が初めて気付いた時でもありました。」

ヤングアスリートの成功と高い評価は、その用途の広さと順応性ということも理由のうちです。ヤングアスリートは、個人の家庭から教室、地域活動のような様々な環境下で使用することができます。ヤングアスリートは、ファミリーが子供達の成長をサポートするコミュニティネットワークに参加する機会となることを狙いにしています。プログラムは、遊びの中の2つの特有のレベルに焦点をあてて作られています。レベル1は、運動能力や手と目の協調の発達に焦点をあてた身体的活動、レベル2は、スポーツで使うスキルを使った身体能力の応用です。ヤングアスリートアクティビティガイドやDVD、ヤングアスリートの道具といった素材は、ファミリーや教師が通常のプレープログラムや日常生活の中でこれらの活動を容易に実行したり、取り入れたりすることを可能にします。

彼女の息子ブレンダンが仲間と一緒にヤングアスリートに参加するのを見た後、アメリカデラウェア州のコリーン・ポップさんは誇らしげな笑顔で言いました。「ブレンダンはこのプログラムに参加して以来、様々な段階において身体的にも社会的にも変わりました。彼はジャンプしています、走っています、ボールを打っています、ベースを走っています。彼は、友達や仲間にも興味を示しました。素晴らしいプログラムだと実感しています。」

ヤングアスリートは、知的障害のない子供達も楽しめる、そして適した活動です。いくつかのスペシャルオリンピックスの各国プログラムでは、知的障害の有無に関わらず、

一緒に遊び交流するための機会としてヤングアスリートを実施しています。一人の教師が言いました。「ヤングアスリートプログラムは、子供達に“できるようになった”という実感や自信を与えます。これによって、仲間とのふれあいを自分からするようにもなりました。」

ヤングアスリートの柔軟性は、子供達や彼らの仲間、ファミリーを、確実に世界中のスペシャルオリンピックスファミリーに迎え入れる素晴らしい機会となります。昨年、ヤングアスリートプログラムは、11カ国、21のプログラムで始まり、2007年の終わりまでに50近くのスペシャルオリンピックス、21の国に広がる予定となっています。1万人以上の子供達がヤングアスリートに参加し、いっせいにスペシャルオリンピックスに迎え入れられる見込みがあるだけでなく、家族にとってはスポーツの中で共通点を見出すこともできるのです。それは知的障害のある我が子とのつながりであり、同じ地域に住む知的障害のある子供を持つ他の両親ともつながることになるのです。

ヤングアスリートを現場で経験した人たちのストーリーや情報を収集するのに加え、スペシャルオリンピックスは、ヤングアスリートの恩恵についてより学ぶために、マサチューセッツ大学に、ヤングアスリートのパイロットテストを行っている様々なプログラムについて研究を行う任務を委託しました。初期段階で明らかになったのは、ヤングアスリートプログラムへの参加は運動神経、社会性、情緒、コミュニケーションの発達へとつながることです。これらが早期に発見されたことは、素晴らしいほどに刺激的で、励みになりました。

2007年に行われるスペシャルオリンピックス夏季世界大会・中国上海は、地元の知的障害のある子供達にとって、ファミリーや教師とともにヤングアスリート活動のデモンストレーションを行う、もう一つの刺激的な機会です。デモンストレーションは、知的障害のある子供達の能力についての認知度を上げ続ける素晴らしい機会であり、かつヤングアスリートを実際に見たことのない人々への機会にもなります。

ファミリー、教師、アスリートの皆様、そしてマテル子ども財団、リンチファミリー財団とギャングファミリー財団の惜しみないサポートに感謝します。スペシャルオリンピックスは、知的障害のある子供達やファミリーに身体、社会性の発達、自尊心や地域生活の世界への扉を開いています。

ヤングアスリートイベントに参加する ELC の生徒  
マーティン・ブグア著

2007年12月7日午後12時

100人の保育園児や幼稚園児がデラウェア大学 ELC（早期療育センター）の体育館に、12月3日、第2回目となる年次スペシャルオリムピックスヤングアスリートデーのために集まりました。イベントの参加者は、知的障害のある生徒と、障害のない友達、それから彼らと一緒に活動してきた32人の健康科学学部健康・栄養・運動科学学科の大学生でした。

イベントは、スペシャルオリムピックスのアスリート宣誓を、全ての学生で声をそろえて言うことから始まりました。「私たちは、精一杯、力を出して勝利を目指します。たとえ勝てなくとも、がんばる勇気をあたえてください。」

学生の運動協調性やスピード、集中力や誘導能力を試す6のブースからなっており、競技会場には障害物コース、コーンスラローム（コーンの周りを走る）、パラシュートゲームなどの活動があります。デラウェア大学の警察官であるマーヴィン・クラーク伍長や、スペシャルオリムピックス・デラウェアの理事であるウィルミントンのバーバラ・スペンス、そしてウィニー・スペンスによるメダル授与によって全ての学生達が表彰されました。

イベントは、デラウェア大学の健康・栄養・運動科学学科の准教授であるナンシー・ゲッチェル氏が、ELCに通う就学前の子供達と行った体育プログラムの成果発表の場でした。

『このイベントは、デラウェア大学の学術プログラムと子供向けの臨床プログラムとの協力関係を完全に実証しています。』と、ELCの所長であるペグ・ブラッドリー氏は言いました。『就学前の子供達やデラウェア大学の学生たちによって一様に実演された興奮と熱意は、学びに焦点を当てた臨床配置サービスの相互的恩恵の証明となっています。』

イベントの調整と運営は、ゲッチェル氏の HESC250 の授業に登録している学部生と、スペシャルオリムピックス・デラウェアのプログラム導入責任者であるジョン・バズビー氏とブラッドリー氏が行いました。

『それはとても良い学びの機会でした。』ニュージャージー州ウィリアムスタウンの健



康・体育専攻の大学2年生トム・シェリダン氏は言いました。『子供と交流し、どのように発育するかを見ることができます。授業で理論を勉強し、ここに来て教え、授業で学んだこととそれがここでどのように応用できるか、毎週考えを記します。』

ヤングアスリートプログラムは、2歳から7歳の知的障害のある子供達がスポーツの世界を経験するために開発された革新的なスポーツと遊びのプログラムです。このプログラムは、将来のスポーツ参加や社会的能力を確立することによって、身体的発達を促し自尊心を高めます。

『それは、子供達をととても元気づけるし、刺激に満ちています。そして、物事を速く学ぶことを教えます。』と、4歳のELC学生である息子を持ったニューアーク在住のジュッタ・ピルス氏は言いました。『それぞれの部屋に何か違う部分があって、そのことが適応能力を必要としています。彼らは、毎日それをするべきなのです。』

スペシャルオリンピックスは、社会的能力を身につける手助けをします

2007年12月10日 11:59am

マギー・ハリスさんは、子供達のために予定している様々な教室への送り迎えに多くの時間を費やしています。

彼らは、作業療法士、言語療法士、社会的技能の教室に通っていて、子供達の健康状態を監督する専門家とともに参加しています。

6歳のキャメロンと3歳のアダムは自閉症と診断されています。

ハリスさんの保険は多くの授業料を補助していますが、それでも週に6つほどの授業は15ドルの負担を課されています。彼女の加入している保険は、例えば12回の授業で800ドルかかる社会的技能の授業料の補助をしていないのです。

そのため、ハリスさんは、いくつかのセラピーや、キャメロンとアダムが取組んだスキルを組み合わせた新しいプログラムをフェデリック郡でスペシャルオリンピックスが始めると知った時、すぐに参加することを決めました。

ヤングアスリートプログラムは、試験的なプログラムとして、2年前に6つの州で知的障害のある小学生ぐらいの年頃の子供達のために始めましたと、スペシャルオリンピックス・メリーランドの西部地区責任者であるアン・マクドナルド氏は言いました。

マクドナルド氏は、プログラムは障害のある子供達が、両親と共に参加し、主要な運動神経を習得しながら、社会的な環境で交流するために開発されたものだと言いました。

スペシャルオリンピックスは、それが非常に効果的なので、世界中にヤングアスリートプログラムを提供し始めることを決定しました。

『メリーランドは、このボートに乗り込むのが早かった』とマクドナルド氏は言いました。

マクドナルド氏は、娘たちとハリスさんの協力により、フェデリック体操クラブにて3か月以上、授業を行っています。

マクドナルド氏は、アスリートにこのプログラムを提供する3つの基本的な方法があると言いました。

最も効果的な方法は、フェデリック体操クラブにて提供しているような地域に根付いたプログラムをすることだとマクドナルド氏は言いました。毎週土曜日に今まで8人から10人の人たちが参加していると言いました。

マクドナルド氏は、『それはまるで遊びの日のようなようです。』と言いました。

子供達は、手品や赤信号・青信号ゲームをやります。結果として、彼らは仲間と交流し、微細／全体運動能力を発達させ、どのように遊ぶかを学んでいます。

子供達は、より深くそれをとらえる場合もあります。

1人の自閉症の6歳の男の子は、初めて地元のヤングアスリートプログラムに参加した時、同時に行われていた一般向けの体操競技教室を見ましたと、マクドナルド氏は言いました。数週間後、彼は通常のグループに参加し、難しい課題である跳馬の踏み切り板でジャンプしたり、両足で着地したりできるようになりました。

彼は、自閉症のある人たちには難しいマット上での前転もできます。

スペシャルオリンピックスにおいて、子供達がプレーするスポーツは、地元の興味やボランティアコーチ要員により様々であると、マクドナルド氏は言いました。

例えば、フェデリック郡においては体操競技を教えることに協力的であったので実現できました。

4歳のオリバー・ガレスピー君は、フレデリック体操クラブで、土曜日に、つり輪に揺られて、トランポリン上で飛び跳ねました。彼は話すことができず、他の発達面での障害がありましたが、キャメロンやアダム・ハリス、その他の子供達と遊びました。

グレチェン・ガレスピーさんは、オリバーとお兄ちゃんのジェームスを、4週間ヤングアスリートプログラムへ連れて行っていました。

子供達は、それが大好きでしたと、マクドナルド氏は言いました。練習が終わると、彼らは帰りたくないのに泣き出すほどでした。

ガレスピーさんは、クラスに参加している他の両親と話すほっとする時間だったと言いました。

『(両親は) 特別なニーズのある子供を持つ状況に対処する時、一人ではないと実感してください。』と、マクドナルド氏は言いました。

スペシャルオリンピックス・メリーランドの活動にアスリートを誘う 2 番目の方法は、道具の無料キットを頼むことです。

そのキットは、ヤングアスリートプログラムを自宅に持ち帰る方法で、番号のついたプラスチックの輪や色のついた星、パドル、ステップといったおもちゃでした。

知的障害のある幼児や、行動に問題のある子供達の両親や保護者は、プログラムを教え始めるのに、そのキットを使うことができます。

3 つ目は、公立学校のプログラムを活用する方法だとマクドナルド氏は言いました。

メリーランドの学校は今のところまだスペシャルオリンピックスのプログラムを提供していませんが、ジュディス P. ホイヤー早期療育・ファミリー教育センター (以下「ジュディ・センター」) が、数カ月のうちに州のいたる所で開始することを望んでいると、彼女は言いました。

ジュディ・センターでは、学生やその家族が学校での学習をより効果的に行うのに必要な学術的、又は社会的スキルを準備します。

考え方としては、ジュディ・センターの学問分野とスペシャルオリンピックスで提供されるスポーツを組み合わせるとのことだと、マクドナルド氏は言いました。

著作権 2007 年 The Frederick News-Post が全ての権利を保有しています。

子供達の生活において、家族が参加することの重要性に疑問の余地はありません。両親や保護者、兄弟姉妹、おじおば、そしていとは、ヤングアスリートに参加するようになる機会をいつも与えられているべきです。予備研究からの発見は、ヤングアスリートから家族が受ける恩恵について、次のようにまとめられています。ヤングアスリートが発表会やイベントに参加しているのを見て楽しむこと、子供の可能性について、親としての期待を増すこと、他の家族との間で、サポートネットワークを構築すること、ファミリーに子供との新しい関わり方を提供すること、その他多くです。ヤングアスリートプログラムは、このようなメリット<sup>1</sup>を促し、拡大しようとするべきです。ヤングアスリートプログラムにおいてファミリーに参加してもらう下記のようなアイデアを見つけましょう。

- ・ヤングアスリートのファミリーにとっての最初の経験は、“スペシャルオリンピックス”の登録用紙にサインすることであろうことを想像してください。親にとって初めて地域社会に根付いた状況で、子供の能力や他者との相互の発達を目の当たりにするのは難しいことかもしれません。ヤングアスリートの開始や始めたばかりの状況において、そんなファミリーの挑戦について両親と会って話をする必要かもしれません。
- ・両親が（プログラム開始日や祝賀会、発表会やその他のイベントなどに）出席している時を最大限に活用してください。
  - 親同士が連絡先を交換する機会となります
  - ファミリーとファミリー、またはそのエリア<sup>2</sup>で提供されている資源とつながる機会となります
  - しばしば、他の地域の資源はファミリーたちとつながる機会を求めています。ファミリーたちと他のサービスやプログラムをつなげるために、彼らはブースを設けるよう促されることもあります。両親は、ヤングアスリートの教師やコーチ<sup>3</sup>よりも、ファミリーに影響を受けることを知っておくべきです
  - 将来のスポーツトレーニングや競技会に向けて地元のコーチたちと話し合う非公式なミーティングや意見交換の場を設けてください。
- ・週毎にファミリーとヤングアスリートの活動や進捗についてコミュニケーションをとってください。
  - 自宅で何ができるかの提案を、週毎にPCでお知らせしたり、自宅に送付したりしてください。
  - 週毎の活動について、自宅に送る簡単な手紙を子供と一緒に作ってください。

注<sup>1</sup> Favazza, Paddy and Gary Siperstein, Evaluation of Young Athletes Program. Special Olympics Global Collaborating Center, University of Massachusetts Boston. 29 December 2006. 22.

注<sup>2</sup> 詳細については、セクション 3-5 を参照。

注<sup>3</sup> 詳細については、セクション 3-1, 3-2 と、小セクション 3-22, 3-25 を参照。

### 3.6 ファミリーの参加を促すアイデア

- ・ヤングアスリートの道具として代用できるであろう日々の家庭用品を、自宅に道具がないファミリーに知らせてください。
  - (ヤングアスリートプレーブック CD に PDF ファイルとして含まれている) ヤングアスリートアクティビティガイドの白黒コピーをとってください。そうすることで、彼らは自宅でもヤングアスリートを活動を続けることができます。
- ・コミュニティに根付いているプログラムやファミリーが取り組むことのできる場所において、道具やアスリートのサポート方法を紹介するために、ファミリーが兄弟姉妹や他の家族を連れてくることを促してください。

### 3 プログラムの実践

#### 3.6 ファミリーの参加を促すアイデア

##### 3.6.1 ファミリーサポートネットワーク

ヤングアスリートは用途が広く、学校や地元グループ団体、認可された保育施設、そして恐らく一番重要である自宅など、様々な異なる環境において行うことができます。知的障害のある子供達は、プログラムに参加している間に成功することを学ぶため、ファミリーや保護者は、励ましやサポートに積極的に参加することが求められます。

スペシャルオリンピックス・ファミリーサポートネットワーク(FSN)は、ファミリーとアスリートが社会的交流をしつつ、必要とされる支援を十分に行い、年間を通してスペシャルオリンピックスに積極的に参加する機会を提供します。FSNは、ファミリーが共通する興味や似たようなチャレンジをしている他のファミリーと触れ合う機会を提供したり、ファミリーがスペシャルオリンピックス内でボランティアをしたりする機会となるなど、アスリートのトレーニングや競技に真剣に取り組むことを認めています。

ヤングアスリートは知的障害のある子供達のファミリーに、スペシャルオリンピックスのサポートネットワークを紹介するすばらしい機会を提供します。ファミリーサポートネットワークや他のスペシャルオリンピックスファミリーグループが、ヤングアスリートプログラムに取り組むことを勧めるべきです。FSNは会員や取組みの拡大を求めているため、ファミリーは自宅や地元のコミュニティセンターでヤングアスリートのイベントを計画・準備することを選択するかもしれません。ヤングアスリートは、社会的にも身体的にもスペシャルオリンピックスの恩恵を他のファミリーに紹介する楽しさあふれる方法です。

ヤングアスリートを披露するためにFSNを利用することで、知的障害のある子供達を持つ新しいファミリーに、スペシャルオリンピックスについて必要十分な情報へのアクセスを提供する機会にもなります。FSNとともにヤングアスリートは、新しいファミリーにサポートシステムを提供します。サポートとは、例えば、とても若い年齢であっても子供が社会的に、身体的に発達することを気づく機会が必要なのです（気づかされることもあります）。また、両親や保護者は現場で参加することもできるのです。

地元のコミュニティイベントはさておき、規模の大きな地域のファミリーフォーラムもヤングアスリートを紹介するのにもってこいの環境です。ヤングアスリートを紹介するために、デモンストレーションを行っても良いかもしれません。ファミリーは、国や州、地域において他のファミリーを啓発したり活気づけたりするために、この貴重な情報を持ち帰ることが推奨されます。より小さい規模では、ファミリーが地域の学校に対し、ヤングアスリートのデモンストレーションをしようと提案するのも良いでしょう。ファミリーや教師、校長やその他の学校の役員へ直接接点を持ち紹介すると、学校内でのヤングアスリート実施につながる重要な経験となります。

## 3 プログラムの実践

### 3.6 ファミリーの参加を促すアイデア

#### 3.61 ファミリーサポートネットワーク

初期段階でヤングアスリートを成功させるには、学校や地域社会に結びつけることで可能となります。しかしながら、この成功を継続させるには、スペシャルオリンピックスのファミリーたちのサポートや取組みなしには不可能でしょう。ファミリーの周りに組織は作られるので、スペシャルオリンピックスは、地元のコミュニティへ情報を伝えるのに、ファミリーに頼ることがしばしばあります。ファミリーは、スペシャルオリンピックスや知的障害のあるスペシャルオリンピックスのアスリートについて啓発したり、心構えを高めたりしてくれるのです。

ファミリーサポートネットワークについてのさらなる情報は、[www.specialolympics.org](http://www.specialolympics.org) を参照ください。



ヤングアスリートプログラムを紹介するために、この手紙を地元のアスリートやファミリーに送ってください。

〇〇様

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思えます。

スペシャルオリンピックスは国際的な非営利活動法人で、スポーツトレーニングや競技への参加を通して、知的障害のある人が健康で、生産的、また社会の尊重される一員となるように支援をしています。スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年世界中で試験的に実施され、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれて、家族や保護者も参加を促されます。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達の適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達のファミリーを、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加すること、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力への認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートはファミリーに、子供達の発達をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

将来、スペシャルオリンピックスに参加するアスリートには、どのようなスキルが必要ですか？ヤングアスリートが発達を促すスキルのいくつかには次のものがあります：基本的なスキル、歩く・走る、投げる、蹴る、ボールをバウンドさせる・キャッチする、その他にスペシャルオリンピックスでアスリートとして参加したり競ったりするのに重要な上級のスポーツスキルも同様です。

私たちは、幼い子供達、ファミリーと地域社会に、ヤングアスリートから得るその効果を経験して頂きたいと思っています。スペシャルオリンピックスには、ヤングアスリート DVD やプレーブックといったプログラムをうまく実施できるような資料があります。もしヤングアスリートのデモンストレーションに参加することに興味がある場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡下さい。ヤングアスリートの利点とメリットを、またスペシャルオリンピックスがあらゆる年齢の子供達にも楽しめる活動だということを経験して頂けると思います。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピックス名または肩書】

ヤングアスリートは、知的障害のある子供達と仲間との強い関係を築き、幼少期において認知を高め始める機会となります。ヤングアスリート活動は、2歳から7歳の全ての子供達に適しています。ヤングアスリートの試験的实施に参加したスペシャルオリンピックスの各国プログラムは、ヤングアスリートの仲間（障害のない子供）を取り込むように計画された新規構想の場合、仲間と同様にヤングアスリートへも高いレベルで影響があることがわかりました。ヤングアスリートプログラムに仲間を取り込むための下記の提案について考えてみてください。

- ・ユニファイドスポーツのような、知的障害のある人とない人が一緒になって遊べるような包括的なヤングアスリートプログラムを作ってください。
  - 仲間が知的障害のある子供達のメンターとなるようトレーニングしてください
  - ヤングアスリート活動への参加を仲間に促してください
  - ヤングアスリートへの支援に特別な興味をもった仲間に功労賞を提供してください
  - ヤングアスリートのデモンストレーションを開催している際に仲間がサポートできるような役割を作ってください
    - 迎える人
    - 案内係
    - 可能であれば、ウェルカムスピーチをして、どのように“投げることを学ぶ”や“走ることを学ぶ”など、子供達の手助けを行ったかを説明します
- ・より包括的な状況においてヤングアスリートの実行戦略をたててください。知的障害の有無を超えた友情を育み、ヤングアスリートの背景において社会に認められるということをサポートすることです。
  - 両親に自宅での『遊ぶ日』に、知的障害のある子供達を招待し仲間に迎えることを勧めてください。そして、子供達のための他の活動にヤングアスリートの活動を組み込んでください。
  - 参加してください。知的障害の有無に関わらずに子供達が集った時、ただ参加し遊ばせるだけにしないでください。子供達が互いに安心できるように指導し、ヤングアスリート活動を通して互いが分かりあえるようにしてください。
  - 知的障害のある子供とない子供には、別々の機会にヤングアスリートを紹介するようにしてください。活動や道具を子供達に理解してもらった後に、お互いが活動を共に実践できるグループ分けをしてください。グループでは、互いの違いよりもヤングアスリート活動を共に楽しむという類似点を認識

# YOUNG ATHLETES

するでしょう。

ヤングアスリートを紹介するために、地元のコミュニティにて知的障害をもたないヤングアスリートのファミリーたちにこの手紙を送ってください。

〇〇 様：

知的障害のある子供達をスポーツの世界へ導くために、想像力に満ちて楽しく、互いに影響し合える方法を見つけるのは難しいことです。しかしながら、このたび、スペシャルオリンピックスの競技会に参加できる8歳になる前の2歳から7歳の知的障害のある子供達に、身体や自尊心を発達させることのできる革新的で用途の広いプログラムについてご紹介させていただきたいと思います。

スペシャルオリンピックスは国際的な非営利活動法人で、スポーツトレーニングや競技会への参加を通して、知的障害のある人が健康で、生産的、また社会の尊重される一員となるように支援をしています。スペシャルオリンピックスのヤングアスリートは、用途の広いプログラムで、様々な学習機会に対応できます。2006年世界中で試験的に実施し、ヤングアスリートは幼稚園や学校、保育園を含む様々な環境において成功しています。子供達が身体活動を通して成功を経験するにつれて、家族や保護者も参加を促されます。

スペシャルオリンピックスは、新しいヤングアスリートプログラムに参加するよう就学前プログラムに依頼してきました。このプログラムはスペシャルオリンピックス活動について教育する理念の中心となり、参加する全ての人々がプログラムの最中に学んだ能力を発揮し、結果として集大成としての“ファミリー・ファン・デー”となるでしょう。

知的障害のない息子さんやお嬢さんに、活動の最中に特別な支援の必要な生徒たちとペアになってヤングアスリート活動に参加して欲しいと考えています。全ての子供達がクラス全体として活動に参加し一つになれるでしょう。

ヤングアスリートは、身体・認知・社会性の発達を促すことを目的に、発達的に適した遊びを基にした活動であり、知的障害のある子供達は夢中で取り組みます。また、知的障害のある子供達のファミリーを、スペシャルオリンピックスの支援の輪に迎え入れ、障害のない仲間（ピア）も一緒に参加すること、発表会やその他のイベントの実施を通して、知的障害のある子供達の能力への認知度を上げるのです。このプログラムは、個々の家族で実施する方法から、教室や地域での取り組みまで、様々な環境において使われます。ヤングアスリートはファミリーに、子供達の発達

### 3 プログラムの実践 3.7 仲間を集めるためのアイデア 3.71 仲間の両親への手紙例

をサポートするコミュニティネットワークを経験してもらおうと努めています。

私たちは、幼い子供達、ファミリーと地域社会に、ヤングアスリートから得るその効果を経験して頂きたいと思っています。もしヤングアスリートのデモンストラーションに参加することに興味がある場合は、【03-〇〇〇〇-××××番】の【〇〇】までご連絡下さい。ヤングアスリートの利点とメリットを、またスペシャルオリンピックスがあらゆる年齢の子供達にも楽しめる活動だということを経験して頂けると幸いです。

かしこ

【州や地区のスペシャルオリンピックス名または肩書】